

グロテスク、ゴシック叙事詩

GE Graven著

序文

天使の墮落とそれに続く大洪水の物語は、間違いなく世界に伝えられてきたゴシック伝説の中で最も偉大なものであった。G.E. グレイヴンの『グロテスク：ゴシック叙事詩』は、その歴史的散文を中世後期へと継承し、外典である『エノク書』、『巨人の書』、『ヨベル書』、『死海文書』、『ソロモンの知恵』、『シビュラの神託』に基づいた壮大なゴシック叙事詩として描いている。そして、長年嚴重に守られ、秘密にされてきた数多くの文学的遺物。

百年戦争の勃発、黒死病の猛威、そして大分裂の時代、戦争で荒廃した中世ヨーロッパを舞台にした、完全イラスト入りの無料オンラインゴシック小説は、終末論的なスケールの歴史叙事詩です。ゴシックヒーロー、ラザルス・ゴグは翼を持つ少年で修道院の従者ですが、突然、彼を滅ぼそうとする敬虔な男たちと墮天使たちの敵対的な世界に放り込まれます。地獄からの脱出に固執している。ほぼ絶望的な状況下で、ラザロは生き延び、信仰を貫き、中世のハルマゲドンの勃発を阻止するために奮闘しなければならない。

もう一つの絡み合った筋書きは、破門された枢機卿ジャン＝フランソワの反英雄的な物語である。聖座のブラージュは、ラザロの行動に反する行動を続けている。3つ目の絡み合った筋書きは、墮天使と追放天使の両方で、ラザロの闘争と大印章を構成する門石の開放に関して異なる思惑を持っている。これらの墮天使には、ラザロの母なる存在であり主要な敵対者であるルシファエルが含まれる。

宇宙の終末を操る物語。創造の全てが、翼を持つ少年でありネフィリムでもあるエルジョという、グロテスクな追放者の献身と、最後の願いを叶え、異国へ飛び立ち、修道士を連れてくるという彼の揺るぎない決意にかかっている、世界規模の複雑で手に汗握る旅。全編は3つの独立した巻から構成されています。第1巻：復活、第2巻：試練と苦難、第3巻：中世のハルマゲドン。

